研究論文（査読あり））

国際地域研究論集のテンプレート  
Document Template for Submitting a Manuscript to JISRD

縦書き・二段組み用  
Document Template for Submitting a Manuscript to JISRD

国際　花子・国際　太郎

KOKUSAI Hanako and KOKUSAI Taro[[1]](#endnote-1)

サマリーを冒頭に置く場合には、この位置にスタイル【サマリー】の書式を用いて書く。研究論文（査読あり）の場合には、この位置に英文で書かなくてはならないが、それ以外の場合は文末においても構わない[[2]](#endnote-2)。.

キーワード： 電子編集、電子ジャーナル、テンプレート

Key words: electronic editing system, electronic journal, template

# 一　はじめに

本執筆要領は、特に明示しない限り和文横書きの研究論文に関するものであるが、他の和文横書き原稿にも準用する。和文縦書きの研究論文他は縦書き用テンプレートを、英文論文他に関しては英文用テンプレートを用いること。これらテンプレートを順守することが論文の性格上困難をきたす場合は、エントリー時に編集委員会と相談されたい。

# 二　原稿作成・投稿について

## 二―一　原稿の作成

国際地域論集は、標準的なパソコン環境下において、投稿者自身が原稿の基本的な組版を行うことを想定している。投稿者は、その補助となるテンプレート（ひな形）ファイル（MS Word形式）をダウンロードしたうえで活用し、原稿を作成する。MS Wordを用いて論文を作成する場合は、［ホーム］タブ右の［スタイル］ボタン、ないしは［スタイルの変更］プルダウンリストを使用することで、各項目に適切なスタイルを設定することができる。テンプレートとスタイルの使用法については、事前に講習会を開催するので、疑問点がある場合は講習会に参加されたい。

### （一）用紙サイズ・組版について

判型はＢ５版とする。テンプレートとして、（一）横一段組、（二）横二段組、（三）縦二段組を用意する。和文の場合にはこの三種から、英文の場合は（一）および（二）から選択されたい。和文の場合には（二）を、英文の場合には（一）を原則とする。和文・英文以外の言語で原稿を執筆する場合も、上記三種のテンプレートを準用する。ただし、その場合は完成原稿を提出されたい。

和文・英文の原稿であっても、内容上これらのテンプレートのいずれに従うことにも無理がある場合、および上記三種のテンプレートを準用することが難しい場合は、論文のエントリー時に必ず編集委員会と協議のうえ、完全原稿を提出されたい[[3]](#endnote-3)。

なお、余白と段組みの詳細は、以下の通り。

○判型 Ｂ５版  
○余白 上：二三㎜ 下：二五㎜  
 左：一八㎜ 右：一八㎜  
 とじしろ：二㎜  
○字数・行数 三二字二九行×二段  
 段間隔二字  
○タブ 二字

### （二）フォントおよび段落体裁について（九ｐ）

フォントは、原則として和文では明朝、英文ではTimes New Roman、あるいは類似のフォントを用いる。このテンプレートでは、和文フォントにWindows標準のMS P明朝を使用している。ただし、［見出し三］のみはMS ゴシックを使用している。他の言語で原稿を執筆する場合、あるいは、論文の性質上他のフォントを使用する必要がある場合には、事前に編集委員会と相談されたい。

各項目のフォント・サイズ等は以下の通り定める。このうち、（七）［見出し二］、［見出し三］および（八）、（一一）は、段組テンプレートを使用する場合は二段組とする。（九）と（一〇）は挿入する画像・図版の大きさに合わせて一段組み・二段組を選択するものとする。

（一）スタイル名：［分類］。論文冒頭には、（ａ）研究論文（査読あり）、（ｂ）研究論文（査読なし）、（ｃ）研究ノート、（ｄ）翻訳、（ｅ）調査・実践報告、（ｆ）その他の別を書く。MS P明朝九ｐ。行間固定値一四ｐ。インデントなし。  
（二）スタイル名：［表題］。続けて論文タイトルを和文で書き、任意指定の改行をして（段落ではなく）欧文タイトルを書く。MS P明朝／Times New Roman 一四ｐ太字。行間固定値一六ｐ。段落前二八ｐ／段落後七ｐ空き。左インデント一文字／右インデント一文字／中央揃え。アウトラインレベル一。  
（三）スタイル名：［副題］。副題が存在する場合は表題に続けて副題を書く。最初の行は和文。任意指定の改行に続けて欧文タイトルを書く。MS P明朝／Times New Roman 一二ｐ。行間固定値一四ｐ。段落前〇行／段落後一．五行空き。左インデント二文字／右インデント二文字／中央揃え。アウトラインレベル二。  
（四）スタイル名：［署名］。著者名を、最初の行に和文で書く。MS P明朝／Times New Roman 一〇ｐ。行間固定値一四ｐ。右揃え。著者の所属・肩書き等はそれぞれの氏名の右肩に注番号を挿入し、記述は文末脚注とする。  
（五）スタイル名：［サマリー］。研究論文［査読あり］の場合は英文で二〇〇語程度のサマリーを書く。研究論文［査読あり］以外のすべての原稿についてはサマリーの有無は自由とする。サマリーを書く場合も、使用言語は自由とし、サマリーを著者名のすぐ下に配置するか、文末に配置するかも自由とする。MS P明朝／Times New Roman 九ｐ。行間固定値一四ｐ。段落前一行／段落後一行空き。左インデント三文字／右インデント三文字／両端揃え。  
（六）スタイル名：［キーワード］。研究論文［査読あり］の場合は五つ以内のキーワード（言語は任意）を書く。研究論文［査読なし］の場合はキーワードの記載も使用言語も自由とする。MS P明朝／Times New Roman 九ｐ。行間固定値一四ｐ。左インデント三文字／右インデント三文字／両端揃え。  
(七)スタイル名：［見出し一］［見出し二］［見出し三］。章・節の見出しはこの三段階とする。  
［見出し一］は、MS P明朝／Times New Roman 一二ｐ太字。行間固定値一四ｐ。段落前一行／段落後一行空き。中央揃え。アウトラインレベル一。  
［見出し二］はMS P明朝／Times New Roman 一〇．五ｐ太字。行間固定値一四ｐ。段落前一行／段落後一行空き。左インデント一字／両端揃え／ぶら下げ二字。アウトラインレベル二。  
［見出し三］はMS ゴシック／Times New Roman 九ｐ太字。行間固定値一四ｐ。段落前一　1行／段落後0行空き。左インデント0字／両端揃え／ぶら下げ二字。アウトラインレベル三。  
（八）スタイル名：［本文］。論文本体にはこのスタイルを適用する。MS P明朝／Times New Roman 九ｐ。行間固定値一四ｐ。両端揃え／ぶら下げ一二字。  
（九）スタイル名：［図表番号］。図表を挿入する際には、図表の下にこのスタイルで図表番号とタイトルを入力する。MS P明朝／Times New Roman 九ｐ太字。行間固定値一四ｐ。字下げ二字／中央揃え。  
（一〇）スタイル名：［図表注記］。図表に注記が必要な場合は、［図表番号］に続けて注記を記入し、このスタイルを適用する。MS P明朝／Times New Roman 九ｐ。行間固定値一四ｐ。左インデント一字／右インデント一字／ぶら下げ二字  
（一一）スタイル名：［文末脚注文字列］。MS P明朝／Times New Roman 八ｐ。行間固定値一二ｐ。ぶら下げ二字。

### （三）図表の掲載について

原稿に図表を掲載する場合、投稿者自身が図表を電子的に作成し、本文の中に埋め込むレイアウト原案を検討する。図表のサイズは決定および配置等は、できる限り投稿者の希望を尊重するが、最終決定は編集委員会が行う。図表の色は原則として白黒である。カラーを利用する場合、編集委員会と相談されたい。本文の中の配置については、次の形式を参考とされたい。

|  |
| --- |
| 図一　図一のタイトル  （注）図一の注。図の出典等の情報を記すものとする。使用するスタイルは［図表注記］とする。 |

|  |
| --- |
| 表一　表一のタイトル  （注）表一の注。表の出典等の情報を記すものとする。使用するスタイルは［図表注記］とする。 |

二段組みテンプレートを使用する際に図表が一段の横サイズよりも大きい場合には、一段組みとすることも可とする。図表は、原稿に貼り付けたもののほかに、完成原稿として印刷した際にも可読性のある解像度のものを作成し、PDFないしはJPEGファイルで別途提出すること。電子データとして送信するには大きすぎる場合は、CD-ROM等に焼いて編集委員会まで郵送すること。提出された図版が、印刷した際に不鮮明となっても、執筆者の自己責任とする。

### （四）謝辞

謝辞は、本文の末尾、文末脚注の前に、まとめて記載する。

### （五）文末脚注

注は文末脚注とし、文末に一括記載する。番号は通し番号とする。注番号は本文の右肩に付ける。Ms-Wordの標準の文末脚注機能を使用することが望ましい。

文末脚注にはスタイル名［文末脚注文字列］を使用する。これ以外のすべての部分とは異なり、８ｐフォントを用いて行間を固定値一二ｐとすること。本文二段組みの場合は文末脚注も二段、一段組みの場合は文末脚注も一段とする。

本文または注記における文献引用の際には、各専門分野の標準的形式に従う。巻末に引用文献目録を置く場合も、各専門分野の標準的な形式に従うものとする。その場合はスタイル名［文末脚注文字列］の書式を準用する。

## 二―二　原稿の投稿

原稿の投稿とは、（一）送付状、（二）原稿本文、（三）別添の図表（存在する場合）、（四）送付状を除くすべての原稿のハードコピー（紙に印刷したもの）六部を、編集委員会まで送付することをいう。投稿は、電子メールに添付する方法と郵送または宅配便で送付する方法とがある。

電子メールに添付で投稿する場合は、上記（一）と（二）の電子データ（MS- Wordの文書ファイルとこれをPDFに変換したもの）を電子メールに添付して [jisrd@unii.ac.jp](mailto:jisrd@unii.ac.jp) まで送信する。その場合、Subjectには必ず「国際地域研究論集投稿原稿（Submission to JISRD）」と記す。また、（三）と（四）については、電子メールを利用した投稿の場合であっても、（三）はCD-ROM等のメディアに焼き、（四）は紙に印刷したものを六部、編集委員会（左記住所）宛てに郵送すること。

〒九五〇‐８６８０

新潟市東区海老ヶ瀬四七一

新潟県立大学国際地域学部

国際地域研究論集編集委員会

その場合は、封筒の表に必ず「国際地域研究論集投稿原稿」と朱書すること。

郵送または宅急便等で送付する場合も、（一）～（三）までのすべてをCD-ROM等に焼いたうえで、（一）のハードコピー一部と（二）～（四）までのすべての文書のハードコピー六部と共に、上記宛先まで送付すること。封筒に「国際地域研究論集投稿原稿」と朱書することも同様とする。

## 謝　辞

JISRDの発刊にあたり、多くの方のお世話になった。この場を借りて、感謝の意を申し上げる。

### 参考文献

［日本語文献］

国際太郎1965． 『国際地域学入門』国際地域館．

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

［英語文献］

Kokusai, T. (1965). Introduction to international studies and regional development. Niigata: Kokusai-chiiki Publishing House.

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

1. 著者の所属については文末脚注の冒頭に記すものとする。 [↑](#endnote-ref-1)
2. 〈研究論文（査読有）〉の場合は、この位置に英文のサマリーを置く。それ以外の原稿はサマリーの有無・使用言語ともに自由とし、サマリーを書く場合でもその配置はこの位置であっても文末であってもよろしい。 [↑](#endnote-ref-2)
3. 投稿規定を熟読のうえ、完全原稿を提出されるよう、準備されたし。疑問がある場合は編集委員会にお問い合わせいただきたい。編集委員会ではテンプレートの説明会を計画している。こちらにもぜひご出席いただきたい。 [↑](#endnote-ref-3)